

## シーニックバイウェイルート指定の審議

## 1. 推進協議会構成機関からの意見

## (1) シーニックバイウェイルート

<p><b>大雪・富良野ルート</b></p> <p>A: 当該ルートは大雪山国立公園、富良野芦別道立自然公園など雄大な山岳や広大な森林、湖などの豊かな自然を背景とした北海道らしい田園風景など優れた景観にも恵まれている。北海道としてもこの四季の変化に富んだ豊かな自然を生かし、地域の魅力を高めている農村・自然景観の保全や芸術・文化の創造など個性的で活力に満ちた地域づくりとこれに連動した広域的な観光地づくりを地域とともに進めているところであり、大雪・富良野地域がシーニックバイウェイルート指定されることにより、地域の活力が一層高まることが期待できる。</p> <p>B: 富良野の丘陵地に広がる農地が織り成す景観は、観光資源として既に高い評価を得ており、全国的な知名度も非常に高い。</p> <p>本ルートが目指す農業・観光・商業の連携強化による地域づくりが、道内他地域に対して、先駆的モデルとなることを期待。</p> <p>C: 全国的に知名度が高い富良野・美瑛を中心に、観光と生産性に期待が出来るルートである。その中において、金山湖周辺ルートの気軽な散策をモチーフに立体的景観を楽しめる場所の演出に期待する。また、各地域特性を生かしたイベントにより、ドライブへ駆り出す力を生むこととなり、昨年の結果も各地域の活動も良好と見受けられ期待できる。</p>
<p><b>支笏洞爺ニセコルート</b></p> <p>A: 当該ルートは支笏洞爺国立公園からニセコ羊蹄地域に係るエリアで、美しい湖沼や羊蹄山や恵庭岳、有珠山などの雄大な景観など自然資源に恵まれた地域で、日本を代表するリゾート地、温泉観光地として発展してきたところである。</p> <p>北海道としても、この豊かな観光資源を生かし、地域とともに四季を通じ、文化的で国際性豊かな地域づくりを推進しており、シーニックバイウェイルート指定により、地域の活力が一層高まることが期待できる。</p> <p>B: 新千歳国際空港を有する千歳・恵庭エリア、外国人・アウトドア観光客誘致で大きな成果を上げているニセコ羊蹄エリア、温泉等の観光資源に恵まれた洞爺湖エリアの3エリアから形成。</p> <p>観光資源において国際的競争力を有する3エリアが連携を深め、世界水準のルートとなることを期待。</p> <p>C: 自然の観光資源に恵まれたルートであり、知名度は高いルートであるので、点を線で結ぶ演出が楽しみなルートである。昨年の結果と企画の中では、ウェルカムルートとなる千歳・恵庭地区の生産性が乏しい感があり、持続性が心配される。北海道らしさが見られるルートであり、昨年の3つのエリアでの活動もシーニックに対する意識の高いものとなっており今後の活動が期待できる。</p>
<p><b>東オホーツクシーニックバイウェイルート</b></p> <p>A: 当該ルートは網走から知床にかけての7市町村で構成されるルートで、流氷や知床半島など雄大で恵まれた自然を生かした魅力ある観光地づくりをめざしたさまざまな取組が進められている。平成17年7月に予定されている知床の世界自然遺産登録を契機に、地域の住民、民間、行政など地域全体が知床・オホーツク圏観光の振興方向について共通の認識を持ち、協働の力で観光振興を総合的、計画的に推進するため、平成17年3月に道と地域が一体となって策定した「知床・オホーツク観光立圏行動計画」において、「東オホーツクシーニックバイウェイの推進」は当該計画の主な施策の一つとして位置付けられている。</p> <p>当該ルートがシーニックバイウェイルートに指定されることにより、計画がめざす知床・オホーツク圏における「自然環境を生かした観光地づくり」の推進につながることを期待できる。</p> <p>B: 世界遺産指定予定にある知床を有し、今後一層、国内外からの注目が高まることが予想される。</p> <p>地域に根ざした継続的な取組を期待。</p> <p>C: 今、世界遺産で注目されている知床へのルートとして、美幌・網走地区からのドライブルートとして、魅力ある演出と各地域の取組が期待される。各地域で活動している既存の活動を連携し、季節的に魅力あるルートとして期待できると共に、シーニックへの協力体制も認められるので今後の活発な活動を期待する。</p>

(2)シーニックバイウェイ候補ルート

釧路湿原・阿寒・摩周ルート(候補ルート)

A:当該ルートのある釧路・根室地域においては、湿原や湖沼などすぐれた自然とのふれあいを通じ、自然を学び、憩う場として広く海外にも知られる地域をめざしており、シーニックバイウェイの指定により、景観の質の向上が図られ、地域の魅力が一層高まることが期待される。

B:景観資源については、阿寒湖・摩周湖・釧路湿原等、他地域に比べての優位性を有し、指定ルートとしてのポテンシャルも十分認められる。

活動団体の連携を強化することによって、より具体的な運営活動計画を策定頂き、早期の指定ルート化に期待。

C:観光ブランドは申し分ないルートであるが、繋がりのある魅力あるドライブルートとしていただくことを期待する。東オホーツクルートと釧路ルートの演出により知床へのルートがより楽しいものとなるので、各地域の意識をまとめ魅力あるルートとして実現していただきたい。

函館・大沼・噴火湾ルート(候補ルート)

A:当該ルートのある渡島地域においては、歴史・文化や自然を生かした広域的な観光・保養エリアの形成や地域づくりが進められており、シーニックバイウェイの指定により、景観の質の向上が図られ、地域の魅力が一層高まることが期待される。

B:歴史・文化面を含めた観光資源のバランスの良さに、優位性有り。

地域に根ざした運営活動計画と新たな観光資源の発掘に期待。

C:函館を中心となる企画であるが、道南ルートとして膨らみのあるものとして頂きたい。

第1回シーニックバイウェイルート及び  
シーニックバイウェイ候補ルートの指定について（案）

平成 17 年 5 月 9 日  
シーニックバイウェイ北海道推進協議会

1．シーニックバイウェイ北海道実施要綱第十八条第一項及び第二項の規定に基づき、次の通りシーニックバイウェイルートの指定を行う。

名 称：支笏洞爺ニセコルート

ルート：恵庭市、千歳市、蘭越町、共和町、岩内町、倶知安町、ニセコ町、京極町、真狩村、喜茂別町、留寿都村、大滝村、壮瞥町、虻田町、洞爺村、伊達市、豊浦町

提案者：支笏洞爺ニセコルート代表者会議

名 称：大雪・富良野ルート

ルート：旭川市、富良野市、東神楽町、東川町、美瑛町、上富良野町、中富良野町、南富良野町、占冠村

提案者：大雪・富良野ルート運営代表者会議

名 称：東オホーツクシーニックバイウェイ

ルート：網走市、美幌町、女満別町、小清水町、清里町、斜里町、東藻琴村

提案者：東オホーツクシーニックバイウェイ連携会議

2．また、シーニックバイウェイ北海道推進の基本方針に基づき、シーニックバイウェイ北海道実施要綱第十八条第一項及び第二項の規定に準じて、次の通りシーニックバイウェイ候補ルートの指定を行う。

仮 称：函館・大沼・噴火湾ルート

ルート：函館市、七飯町、森町、砂原町、鹿部町、大野町、上磯町

提案者：（仮称）函館・大沼・噴火湾ルート代表者会議

仮 称：釧路湿原・阿寒・摩周ルート（クリアストリーム）

ルート：釧路市、阿寒町、弟子屈町、中標津町、標茶町、別海町、鶴居村

提案者：釧路湿原・阿寒・摩周ルートシーニックバイウェイ代表者会議

なお、上記指定を行うにあたって、別紙の通り意見を付記する。

### シーニックバイウエイルート

シーニックバイウエイルート全体に対する意見

道外、国外の地域づくりの事例を踏まえると成功のポイントは、「自主性」「挑戦」「活動のネットワーク」「人材育成」「住民との連携」など挙げられる。これらに留意しつつ、地域に合ったスピードで具体的な活動を展開していくことが望ましい。

特にシーニックバイウエイルートにおいて特に以下の点に留意しつつ進められたい。

- ・ 景観への取り組み：景観意識の向上、景観や地域資源を生かしたコミュニティビジネスの創出
- ・ 持続性の確保：参加する各主体（国、道、市町村、活動団体、住民）による持続的な責任ある行動とその活動や成果に対する外部評価やアドバイザーの採用
- ・ 地域特性の活用：北海道特有の気候風土を生かし、常に新しいものの追加、物語性の充実、国際競争力の強化を進め、通年性、持続性を確保
- ・ ホスピタリティ向上：研修プログラムの実施、地域での多様な人材育成
- ・ 全国・世界への情報発信、旅行会社等民間企業との連携
- ・ 開かれた運営体制：継続的な参加者の募集、地域住民やコミュニティとの連携・協働
- ・ 既存観光地からの脱却を目指し、歴史・文化・レクリエーションなど幅広く地域の個性を生かした新たなツーリズムの展開に向けた取り組みの実施

### 支笏洞爺ニセコルート

今後、3エリアがひとつのテーマでつながり、ブランド化されるため、一層連携した取り組みが必要であるとともに、十分な体制と支援が必要である。

地域住民、旅行者が共有できるようなテーマ、ルート名（愛称含む）等の工夫が引き続き必要である。

ウェルカム北海道エリアについて、市街地部の景観改善が本ルートの重要な役割を担うことから、景観意識の向上等に継続的に取り組んでいく必要がある。

「食」文化について一層の取り組みを期待したい。

### 大雪・富良野ルート

T VやC Mでの知名度と自然、農業等の地域固有の資源との調和が必要である。

地域住民、コミュニティ、多種多様な主体の参加・協働を一層進めるとと

もに、広域的な連携を行い、特に市街地部、屋外広告物等の景観の改善や自然との調和、郊外部と市街地との連携、視点場の設定と演出等に取り組んでいく必要がある。

「花人街道」の取り組みの成果と評価を行い、その知見を今後の活動計画に反映されたい。

本地域の特色ある自然・歴史・文化・地域の生活等を生かしつつ、主要産業である農業と連携した新たなツーリズムの取り組みについても検討されたい。

#### 東オホーツクシーニックバイウェイ

世界遺産登録を控える当エリアの自然資源は申し分ないが、広域的な連携・協働を行う場合、当エリアに存在する農山村、漁村、観光地などの個性ある地域、資源、人材の連携には十分な議論と工夫が必要である。特に参加団体が多いことから、ルート運営活動計画の趣旨を幅広く共有できる取り組みが必要である。

#### シーニックバイウェイ候補ルート

##### シーニックバイウェイ候補ルート全体に対する意見

今後、地域の住民、コミュニティ、その他多種多様な主体の参加を継続的に促し、参加者がシーニックバイウェイの趣旨を十分に理解し、ルート運営活動計画の策定を通して、目的の共有化を幅広く図ることに努力することが重要である。

また、活動計画の内容が偏ったものとならないよう広域性に留意されたい。

##### 釧路湿原・阿寒・摩周ルート

今後、さらに資源の発掘、ルート活動の取り組み、活動団体や関連団体との連携・協働のあり方などについての議論と合意形成、価値意識の共有等に取り組まされたい。

本ルートは東オホーツクシーニックバイウェイと幾つかの峠で隔てられており、将来的にはオホーツクエリアとの連携も視野に入れた取り組みも行われたい。

##### 函館・大沼・噴火湾ルート

近世の歴史的、文化的資源についての発掘、青森などとの連携も視野に入れるなどルートのブランド化に向けた広範な工夫が必要である。

達成可能な中期目標や実行可能な運営体制の確立が必要である。